

令和 4 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	6 9	学校名	茨城県立岩瀬高等学校						課程	全日制		学校長名	柴沼 克仁			
教頭名	棚谷 克彦			鈴木 好史						事務(室)長名	浅野 邦一					
教職員数	教諭	3 3	養護教諭	1	常勤講師	6	非常勤講師	9 3	実習教諭、実習講師、実習助手	4	事務職員	3	技術職員等	5	計	149
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	普通科		4 5	5 7	3 0	5 5	3 2	6 0			1 0 7	1 7 2	9			
	衛生看護科		4	3 6	1	2 6	3	3 7			8	9 9	3			
	専攻科		2	3 0	3	2 9					5	5 9	2			

2 目指す学校像

- 社会でより良く生きていくために**必要な資質・能力を身に付ける**ことができる学校
- 将来のあるべき姿をイメージしながら、**自己のキャリアについてしっかり考え、最良の選択**ができる学校
- 「自分の中の力を伸ばせ」という校訓のもと、**明るく伸び伸びと個性を輝かせる**ことができる学校
- **教師と生徒がともに向き合いながら**、協力して校風や伝統を継承し、さらなる発展を目指し、歩み続ける学校

3 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学 習 指 導	学校の授業が大切であると考える生徒は多数いるが、家庭学習が習慣化されていない等、主体的な学びにつながっていない。生徒が自身の学習活動を振り返って粘り強く継続する授業など、優れた授業実践も行われているが、主体的・対話的な学習へ向けての授業研究が求められる。「朝の読書」を実施することで、読書が培う力(国語力	学習指導方法を工夫しながら授業改善を図るとともに、学習評価の方法を検討し充実させることが課題である。そのために、「学ぶこと」への興味・関心・意欲を高め基礎学力の定着を図りながら I C T を活用し、生徒の主体的・対話的で深い学びを実現する。教員間で、相互に授業参観・授業研究し、個々の優れた授業実践を共有する。また、学習評価等の研修の機会を持つ。

別紙様式 1 (高)

	や言葉の知識、読解力)により教科の学習の基礎学力を身につけさせている。また、読書によって育まれる豊かな感性や情操、思いやりが生徒の心の発達に大きく影響を与えている。	読書によって身に付けた力や自己の考えを活用する機会が少ない。発表の機会や感想文、小論文作成の場を増やし、自分の考えをまとめたり、表現する場を増やしていく必要がある。
進路指導	進路希望が大学・短大・専門学校、就職と多岐にわたる。目標設定が苦手な生徒がおり、授業、インターンシップ、学校行事等で学んだことや経験がキャリア形成に生かさないのが現状であり、自分の進路を選べない、決められない生徒がいる。進路を考える上で、基礎学力が足りない生徒が増えている。その結果、大学進学希望者や普通科において看護系希望者が減っている。	望ましい勤労観・職業観を養い、学んだことを自己のキャリア形成に結びつけられるようにすることが課題である。そのために、進路意識を高める指導を学校全体で実践し、個に応じた指導の充実を図る。基礎学力が足りない生徒への対応として、スタディサプリの導入により基礎学力を向上させる取り組みを開始する。 チャレンジプロジェクトを総合探究の時間と結び付け、進路キャリア教育を一つのテーマとして主体的な進路実現を目指す。
生徒指導	全体的に落ち着いているが、基本的な生活習慣の身に付いていない生徒、公共マナー等に対する意識の不十分な生徒が一部に見られる。「朝の読書」の時間の定着により、遅刻者が少なくなっている。情報モラルが低い生徒がおり、的確な判断ができないため、生徒間のトラブルに発展するケースも見られるようになった。	18歳への成年年齢引き下げに伴い、社会人として必要とされる基本的な生活習慣、資質能力等の育成定着を図ることが課題である。そのために、生徒同士の話し合いや地域の人との対話等を通じ、自己肯定感を高められる指導を推進する。また、シチズンシップ教育、金融教育、性教育、情報モラル・情報リテラシーの育成を進めていく。
特別活動	学校行事には参加するが、自発的・積極的な活動がやや少ない。また、部活動への加入率も低い。生徒会の主体的活動がやや低調な状況がある。	生徒の自発的な活動を促すことが課題である。そのために、学校行事への参加意欲を高めるとともに、部活動への積極的参加を促す。主体性を踏まえた生徒会活動や学校行事の展開により自己有用感を高める。またキャリア・パスポートの活用を図り、より自己理解を深めさせる。
衛生看護科	多くの生徒が看護職に向けて熱心に取り組んでおり、目標に向かって真摯に努力する姿勢が見られる。令和3年度の看護師国家試験では100%の合格率で、就職希望者全員が医療機関に入職し、本県医療の担い手として貢献している。県内就職率および実習機関への就職率は昨年度より向上した。また、一部は大学等へ進学し、進路選択が広がった。	看護師としての職業観・豊かな人間性を醸成し、看護師という職を通しての自己実現を目指した指導を推進する。その手立てとして、教科指導・国家試験対策の充実と指導スキルの共有化を図るとともに、個に応じた実習指導・全人的教育の充実を図る。観点別学習評価による学習指導計画を構築するとともに、臨地実習における学習評価の在り方やシミュレーションシステムを活用した学習方法について研修を深める。
業務改善と生徒に向き合う時間の確保	よりよい教育活動を求めてきた一方、勤務時間内に行うには飽和状況にある。	生徒と向き合う時間を確保することを主眼に、校務全般に係る教職員の業務見直しを行い、持続可能な体制づくりを推進する。

別紙様式 1 (高)

4 中期的目標

<p>1 豊かな人間性を培う。</p> <p>2 基礎学力を定着させるとともに、規範意識の高揚と基本的生活習慣の確立を図る。</p> <p>3 「探究的な学び」の実践を図り、他者と協働し、課題解決のために主体的に考え行動できる生徒を育成する。</p> <p>4 魅力ある学校づくりを進めるとともに、部活動や特別活動の活性化を図り、自尊感情を高め、心身ともに健康な生徒を育成する。</p> <p>5 望ましい勤労観・職業観の育成を図り、生徒一人一人の進路希望の実現を目指す。</p> <p>6 5年一貫の全人的な看護教育の展開を図り、地域医療の担い手となる看護職者の養成に努める。</p> <p>7 本校の特色ある取組を積極的に発信し開かれた学校づくりを推進する。併せて、保護者や地域社会との信頼関係を構築する。</p> <p>8 業務の効率化・働き方改革を意識し、生徒と向き合う時間の確保に努める。</p>

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
(1) 豊かな人間性の育成	<p>①「道徳」の授業や学校行事等の教育活動全体を通して、規範意識や豊かな人間性を養うとともに、他者や社会・自分とは異なる世界とどう関わるかを学ばせ、人間関係構築力やコミュニケーション力を培う。</p> <p>②「朝の読書」を継続して実施し、静かな時間を共有することにより豊かな情操と人間性を育む。</p> <p>③実習や地域との連携した教育活動を通して、医療人(看護師)としての高い倫理観と使命感を育てる。</p>
(2) 学習意欲の向上	<p>④授業改善とともに、学習評価の在り方を検討しその充実に努めることで、「探究的に学ぶ」姿勢を育む。</p> <p>⑤各教科の年間指導計画に基づき、効果的な学習評価や実社会との関連を意図した教育を展開することにより、基礎学力を定着させ、学習への動機付けを高め、主体的な学びの姿勢を育む。</p> <p>⑥少人数授業・課外指導等を実施し、個に応じた発展的な学びを推進して学習意欲を高め、大学入試や国家試験に対応できる学力の向上を目指す。</p>
(3) 基本的生活習慣の確立と生徒指導の充実	<p>⑦全職員の共通理解・実践のもと、端正な身なり・明るい挨拶・時間厳守の習慣を身に付けさせる。特に、社会性育成の観点から登下校指導等において「挨拶ができる生徒」の育成を目指す。</p> <p>⑧成年年齢の18歳への引下げに伴い、社会人としての基本的な資質能力の育成を目指す。</p>

別紙様式 1 (高)

<p>(4) キャリア教育の推進</p>	<p>⑨「進路の手引き」等を活用し、種々の教育活動や行事等（チャレンジプロジェクト）と関連づけながら一人一人のキャリアプランニング能力を高める。</p> <p>⑩実社会の様相や課題解決方法などを踏まえた適切な情報を提供し、生徒のよりよい進路選択に資する。</p> <p>⑪進路指導部と学年との連携を強化し、課外・小論文・模擬面接指導等を通し個に応じた指導の充実を図り、進路希望の実現を目指す。</p>
<p>(5) 魅力ある学校づくりと部活動・特別活動の活性化</p>	<p>⑫生徒会活動を活性化するために、生徒の主体的な取り組みによる学校行事やホームルーム活動等を展開する。</p> <p>⑬HR や学校行事等においてキャリア・パスポートを活用し、自分の高校生活を見通したり振り返りを行うことで自己理解を深めさせ、将来について考え主体的に学び続ける力を育む。</p> <p>⑭部活動への加入率を上げ、熱心に部活動に励む姿を積極的に評価することにより、自尊感情・活動意欲を高め、部活動全体の活性化を図る。</p>
<p>(6) 看護教育の充実・5年一貫看護師養成教育の充実</p>	<p>⑮衛生看護科・専攻科の発達段階を踏まえ、5年一貫の利点を活かした教育活動を展開し、看護に関する知識・技術の習得を図り、将来のスペシャリストを育成するための基盤づくりに努める。</p> <p>⑯教科指導・実習指導・載帽式を始めとする各種行事を通して、看護職への自覚を高めるとともに、看護師としての職業観・倫理観の育成と人間的成長を目指した全人的教育に努める。</p> <p>⑰病院・施設等の関連機関との連携を深め、発展的な学びの場となるよう効果的な実習指導の展開を図る。併せて地域医療の担い手となる人材の育成に資するキャリア教育を展開する。</p>
<p>(7) 開かれた学校づくりと外部への情報発信の推進</p>	<p>⑱地域社会と連携した教育活動を積極的に展開することにより、保護者・地域社会、近隣の小中学校、看護教育機関等との信頼関係を構築し、開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>⑲本校の特色ある教育活動を積極的に報道機関に情報提供するとともに、ホームページ等で地域社会に発信し、本校の認知度を一層高めていく。</p>
<p>(8) 業務の効率化と働き方改革の推進</p>	<p>⑳現行の業務内容について点検・見直しを行い、業務改善を推進し、生徒と向き合う時間の確保を図る。</p>